

令和7年度 第47回高体連オホーツク支部新人柔道選手権大会
兼 第41回高体連オホーツク支部新人女子柔道選手権大会
兼 第48回全国高等学校柔道選手権大会北海道大会オホーツク支部予選会

開 催 要 項

主 催 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部
後 援 北見柔道連盟
主 管 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部柔道専門部
当 番 校 北海道高等学校体育連盟オホーツク支部柔道専門部

1. 日 程 令和7年11月5日(水)

9:00 開場・集合
9:10 受付
9:20 会場設営
9:50 男女体重計量
10:00 審判講習会
11:10 審判会議
11:30 監督・主将会議
11:45 顧問会議
12:00 開会式
12:30 団体戦開始(男子・女子)
個人戦開始(女子・男子)
15:30 表彰式
16:00 会場撤去

2. 会 場 北見市武道館 北見市東陵町27番地1
代表連絡先 北海道北見商業高等学校教諭 中 澤 正 (0157-56-3566)

3. 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定(2025-2028)ならびに北海道高体連柔道専門部申し合わせ事項による。
- (2) 男子団体は5人制または3人制のどちらかに1チームが出場することができる。
- (3) 試合時間は3分とし、延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。
- (4) 抑え込み時は「1本」20秒、「技有」10秒、「有効」5秒とする。
- (5) 「優勢勝ち」の判定基準

ア 団体試合

- ① 団体試合は「有効」または「僅差(指導差2)」以上とする。チームの内容が同等の場合は、その対戦に出場した選手の中から代表選手を任意に選出して代表戦を行う。
- ② 代表戦の判定基準は、「有効」または「僅差(指導差2)」以上とし、両試合者に得点差がない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
- ③ 代表戦の延長戦(ゴールデンスコア)の判定基準は、「有効」以上または「指導」の差により勝敗を決する。

イ 個人試合

- ① 個人試合は「有効」または「僅差(指導差2)」以上とする。技による評価が同等および指導差1以内の場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
- ② 延長戦(ゴールデンスコア)の判定基準は、「有効」以上または「指導」の差により勝敗を決する。

- (6) 団体試合の代表戦及び個人試合において、両試合者が「指導」の累積による同時「反則負け」の場合は、スコアをリセットして延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度 ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。
- (7) 絞め技及び関節技においては、その効果が認められたときは、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。

4. 競技方法

(1) 団体試合

ア 男子 5人制

- ① 数ブロックによる予選リーグを行い、ブロック1位校による決勝リーグで順位を決定する。
ただし、参加校が少ない場合はトーナメント戦を行う場合もある。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム3名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認める。
- ④ リーグ戦の順位決定は次による。
 - I リーグ戦で勝ち数が多いチームの順とする。
 - II Iで同等の場合は、同率校との対戦で勝利したチームの順とする。
 - III IIで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦を行い順位を決定する。
 - IV IIIで同等の場合は、「一本」「技あり」「有効」「僅差」の順によるスコアで順位を決定する。
 - V IVで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦の再試合を行い、順位を決定する。この場合の代表者は任意とし、順位が決定しない場合は再度リーグ戦を行う。（繰り返す）代表戦（順位決定戦）はゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。
- ⑤ トーナメント戦の順位決定は次による。
 - I 勝ち数が多いチームの順とする。
 - II Iで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - III IIで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - IV IIIで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - V IVで同等の場合は、代表選を行う。この場合の代表者は任意とし、代表選の判定基準は個人試合に準ずる。

イ 男子 3人制

- ① 数ブロックによる予選リーグを行い、ブロック1位校による決勝リーグで順位を決定する。
ただし、参加校が少ない場合はトーナメント戦を行う場合もある。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム2名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認める。
- ④ リーグ戦の順位決定は次による。
 - I リーグ戦で勝ち数が多いチームの順とする。
 - II Iで同等の場合は、同率校との対戦で勝利したチームの順とする。
 - III IIで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦を行い順位を決定する。
 - IV IIIで同等の場合は、「一本」「技あり」「有効」「僅差」の順によるスコアで順位を決定する。
 - V IVで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦の再試合を行い、順位を決定する。この場合の代表者は任意とし、順位が決定しない場合は再度リーグ戦を行う。（繰り返す）代表戦（順位決定戦）はゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。

- ⑤ トーナメント戦の順位の決定は次による。
- I 勝ち数が多いチームの順とする。
 - II Iで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - III IIで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - IV IIIで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - V IVで同等の場合は、代表選を行う。この場合の代表者は任意とし、代表選の判定基準は個人試合に準ずる。

ウ 女子

- ① 数ブロックによる予選リーグを行い、ブロック1位校による決勝リーグで順位を決定する。
ただし、参加校が少ない場合はトーナメント戦を行う場合もある。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム2名以上で行い、試合毎のオーダー変更は行わない。
- ④ トーナメント戦の勝敗の決定は男子3人制に準ずる。「イ 男子3人制④」参照

(2) 個人試合（男子・女子）

ア 試合は体重別（4階級）及び無差別とする。

・男子体重区分

-60 kg・-66 kg・-73 kg・-81 kg・無差別

・女子体重区分

-48 kg・-52 kg・-57 kg・-63 kg・無差別

イ 体重区分毎にトーナメントおよびリーグ戦方式で行い、次年度支部大会において各階級4位までをシードする。

5. 参加資格

- (1) 選手は学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 高体連オホーツク支部に加盟している生徒であること。
- (3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意志のある者。
- (4) 令和7年度高体連オホーツク支部柔道専門部を経て、全日本柔道連盟に登録を完了したチーム及び生徒であること。
- (5) 平成18年4月2日以降に生まれた者（令和7年4月2日現在、18歳未満であり第1・2学年に在籍）
但し、同一学年の出場は1回限りとする。
- (6) チームの編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
- (7) 転校後6ヶ月未満の者は出場することが出来ない。（外国人留学生もこれに準じる。）但し、一家転住等によるやむを得ない場合は、北海道高等学校体育連盟オホーツク支部長の許可があればこの限りではない。
- (8) 統廃合の対象となる学校については、当該学校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (9) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
- (10) 参加資格の特例
 - ア 上記（1）（2）に定める生徒以外で大会要項により大会参加資格を満たすと判断され、北海道高等学校体育連盟オホーツク支部長が推薦した生徒について、別途定める規定に従い大会参加を認める。
 - イ 上記（5）については、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の全道大会への出場は2回限りとする。
- (11) 外国人留学生については、卒業を目的として入学していること（短期留学は認めない）。
- (12) 脳震盪対応として、選手およびその指導者は次の事項を遵守すること。
 - ア 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。

- イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場ことは不可とする。(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
- ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。
- エ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (13) 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

[大会参加資格の別途に定める規定]

- (1) 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、北海道高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- (2) 以下の条件を具備すること。
 - ア 大会参加資格を認める条件
 - ① 全国高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - ② 参加を希望する専修学校及び各種学校にあっては、学齢、修業年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。
 - ③ 各学校にあっては、部活動が教育の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失っていない、運営が適切であること。
 - イ 大会参加に際し守るべき条件
 - ① 全国高等学校柔道選手権大会北海道大会実施要項を遵守し、大会申し合わせ事項等に従うとともに大会の円滑な運営に協力すること。
 - ② 大会参加に際しては、責任ある教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。
 - ③ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

6. 引率・監督

- (1) 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。監督は校長の認める当該校の職員または指導者とする。監督については、校長から委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。
- (2) 監督の役割
 - ア 監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
- (3) 監督の行為・言動
 - ア 試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対し指示を与えることができる。
 - イ 次の行為を禁止する。
 - ① 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - ② 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
- (4) 罰則規定
 - ア 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
 - イ 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。
※次の試合(対戦校)からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

7. 参加制限・チーム編成

- (1) 男女団体個人試合ともに特に制限はなし。

8. 体重測定 令和7年11月5日(水) 9時50分
男子・・・道場1 女子・・・女子更衣室

(1) 男女団体、個人戦各階級とも、3位まで表彰する。

(1) 北海道北見工業高等学校ホームページから、『令和7年度高体連オホーツク支部新人柔道選手権大会参加申し込み』のページに入り、『R7 参加申込』データをダウンロードし、次のア・イの要領で送付する。

ア 必要事項を入力し印刷後、学校長の職印を受けた参加申込書は、当日、受付で提出する。

イ 入力済みの『R7 参加申込（個人・団体）』データを下記(2)アドレスへメールにて送信する。
メールの「件名」「申込シート」は学校名で送付する。

- (2) 申込先 〒099-0878 北海道北見市東相内町602番地 北海道北見工業高等学校
北海道高等学校体育連盟オホーツク支部柔道選手権大会事務局 櫻庭 孝義 宛
ホームページ <http://www.kitamikougyou.hokkaido-c.ed.jp/>
メールアドレス t.sakuraba@hokkaido-c.ed.jp
(〒ト ッ ト イ ス イ ケ ユ ア ル エ ビー -エー アットマーク イチ オ ケ ケー エ アイデー オー ハイフン シー ドット イー デー ドット ジェピー -)
TEL：0157-36-5524 FAX：0157-36-5525

- #### (4) 参加料

参加料として1,000円(選手,補欠人数×1,000円)を大会当日、受付時に納入してください。

(5) 参加者の変更が出た場合は当該校長の証明書及び診断書を監督・主将会議までに大会事務局に申し出る
こと。

(1) 10月29日(水)事務局において、専門委員・近隣高等学校柔道部顧問立ちあいのもとに、抽選を行う。

- ## 12. 諸連絡

- (1) 団体試合のオーダー提出について

ア 団体試合オーダー用紙は11月5日(水)本部で受領する。

- ① 1 回戦のオーダーは開会式終了後までに提出する。
- ② 2 回戦以降は本部進行係の指示に従うこと。
- ③ 1 度提出したオーダー（配列）の変更は認めない。

(2) 選手の変更について

- ア 参加申し込み後に変更が生じた場合は、所定の選手変更用紙に当該学校長の証明を得て、大会当日の監督会議の前までに専門部に届け出なければならない。
- イ 参加申込後の選手変更は男女とも1名を限度とする（補欠優先）。但し、感染症や天災等による場合はこれを適用しない。
- ウ 競技開始後に選手変更の必要が生じた場合には、「選手変更用紙」に必要事項を記入し、本部記録係に2部提出する。変更の承認を得てから選手の変更を行うこと。

(3) 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。

(4) 選手は必ず当該校引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負うものとする。

(5) 紅白紐は、出場校で用意すること。

(6) 参加者は全員ゼッケンを付けること（男子は白地に黒、女子は白地に赤）。

女子の試合者は上衣の下に、白色半袖で無地のTシャツ又は、白色の半袖レオタードを着用すること。
なお、Tシャツのマーキングについては、全柔連が定める規定に準ずる。

(7) ごみ等の処理は、持ち帰るなど各学校が責任をもって行うこと。

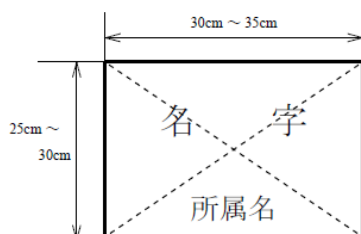
(8) 会場の設営及び後片付けは出場選手で行いますので、可能な限りご協力ください。

(9) 今大会は『高体連主催大会参加者災害補償制度』の対象となります。

(10) 宿泊は各学校で手配願います。

布地	白色（晒、太綾）
サイズ	横 30 cm～35 cm × 縦 25 cm～30 cm
文字位置	名字(苗字)は上側 2/3、所属名(都道府県名)は下側 1/3 横書き
書体	太いゴシック(楷書)、男子は黒色、女子は濃い赤色
縫い位置	後ろ襟から10cm、対角線にも強い糸で縫いつける

例図1 ゼッケンの文字位置・サイズ



例図2 ゼッケンの縫い位置

